
誕生日

春崎やよい

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

誕生日

【Nコード】

N1318E

【作者名】

春崎やよい

【あらすじ】

今日は、志保の誕生日！！新一は、哀に内緒で誕生日の用意を進めていた。そのことは、哀自身も忘れていて・・・うれし恥ずかしの誕生日！！初めての短編です！！

朝起きたとき確かに博士の声が聞こえた

でも、何かがおかしい

不自然すぎるほど、騒がしい

哀は、研究室のベッドの上で目を覚ました

リビングに上がる階段が上がっていくとそこには、ありえない光景が広がっていた

「灰原おはよう」

新一が阿笠邸にいた

ありえないわ。だって、彼は今学校にいるはず

でも、こうして博士の家に来ているじゃない

頭の中では、理解していてもこう目の前に立っている。

哀は、今の状態をどう説明すればいいのかわからなかった。

新一は、階段の前でぼーと立っている哀の前に来た

「ご飯できているぜ？」

「ええ、そうね」

考えているものを払い、食卓に着いた

頂きますの合図をして、朝ご飯を食べ始めた

一体、彼は何を企んでいるのかしら？謎だわ

食べ始めてすぐにさっき考えていることをまた繰り返した

哀は、このことを聞かずには、いられなかった

「ねえ、工藤君。どうして、此处にいるの？学校は？」

「え、あ、それは・・・」

新一は、しどろもどろになりながら答えようとしている

哀は、それをみてもういいわと言った

どうせ、はぐらかされるのが落ちだわ

哀は、ご飯を食べ終わり、片付けようとしたとき新一にとめられた

「灰原、片付けなくていいって。俺がやるから」

「何言っているの？此処は、阿笠博士の家であって、私が後片付けをやるのは、当たり前でしょ？」

少しきつめの口調で言った。

新一は、何もしないで欲しいみたいなのを言うから

まるで、私が片付けさせないようにしているわね。裏がありそうだわ哀は、新一を見て聞いた

「工藤君、私が片づけをしちゃいけないとでも、言うの？」

「何言っているんだよ？今日くらいは、休んだらどうだ？家のことくらい、俺だけで充分だぜ」

新一は、哀ににこりと笑いかけた

「そうね。たまには、いいかもしれないわ」

新一がホッとしているところを哀は、見逃さなかった
やっぱり、何か隠しているわね

何を企んでいるのかは、知らないけれど

食べたものをそのままにして、哀は、リビングから出ていった
部屋に戻り、出かける準備をした

たまには、外に出かける物言いかもしれない

リビングに行き、哀は、新一に出かけることを伝えた

「工藤君、出掛けるわね。帰りは、夕方くらいだと思っから」
それだけ、伝えて出掛けた

何処に行こうかしらと思考を張りめぐらさせた

結局いく当てもなかったから、デパートに行くことにした

買ったりとかはしなかったけど、見てまわるくらいだったわ。欲しいものとかもなかったし

お昼は、軽くミスドに寄って食べたくらいかしら

そういえば、ミスドに杯って食べているときかしら、私の目の前で、色黒の男とポニーテールの女が去っていくのを見たのよね。誰なのか、思い出せないわ

四時くらいに家に帰宅した

「ただいま」

中には、誰もいなかった。博士も、朝いた工藤君も一体、何処に行ったのかしら？

ソファに近づいたとき、人が飛び出てきた

「哀ちゃん、お誕生日おめでとう！」

「へ？」

そう、今日は、宮野志保が生まれた日なのだ。

忘れていたわ。今日、誕生日だったわね

だから、新一は、朝から博士の家に来ていたのだ。

新一に呼ばれたもの、哀の友人たちが集まっていた。

阿笠邸には、蘭・博士・新一・小五郎・絵理・園子・歩美・元太・光彦・服部・和葉・目暮・佐藤・高木・白鳥・ジヨディ・赤井・ジエムズがいた。

「工藤君、朝あなたが此処にいたのって・・・」

「そう、灰原の誕生日を祝おうと思って、準備していたんだ」

ありがとう

心の中で、言った。

「なるほど。だから、朝私が台所に行かせないようにしていたのって、このことだったのね」

「気づいていたのか」

「当たり前じゃない。住んでいるのに、出入りさせないようにしていたんですもの」

当たり前よと哀は、ため息をついた

「でも、ありがとう。私のために」

哀は、素直に言った。

「さあさあ、始めましょう！」

そうして、宮野志保の誕生日パーティが始まった。

工藤君、ありがとうね
嬉しかったわ。

（後書き）

哀の姿なんです、志保の誕生日にしました。

哀ファンの皆さん、どうでしたか？

評価待っていますので、よろしくおねがいします

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1318e/>

誕生日

2010年10月19日13時38分発行